

## 無災害19年をふりかえって

古川営林署 小 仲 貞 次  
真 田 公 一

林業における災害防止対策については、一部には、かなり進んだ施策を講じているところもありますが、算数のようにこれと言った公式もなく、その対策に頭を悩ませているのが、現状ではないかと思えます。

そこで、私達ショウジ谷班は、無災害記録が19年に達し、20年をめざして努力しているところであります。今回の発表はこれと言って、めあたらしいものではありませんが、19年間現場第1線に働く私達が、日頃どんなふうにして安全へ努力してきたのか、又、無災害を続けてきたのかを、KJ法によりあらゆる角度から、さぐってみようというものであります。KJ法については営林署主任の協力を受けやってみた。この発表が多少なりとも、現場の仲間に役立つことがあるとすれば、これにすぎるものはないと思います。又皆様のご批判とご指導を願うものであります。

さて私達の職場ですが、古川管内の北部に位置し、おもな作業地は屋敷ヶ洞国有林と言って 500 H A ほどの1団地です。造林地の標高は 1,150mから 1,300mでスギを植付けている。残雪多い4月に入山し、新雪降り積った11月に下山する山泊形態で作業をしています。過去19年の中で、多い時には25人の仲間と同じ釜のメシを食べて生活しましたが、現在は8人の、こじんまりとした宿舍生活です。作業も地拵から植付下刈と造林全般であり年間事業量面積も 205 H A、地拵下刈等に使用した刈払機の日数も55日ほどです。無災害19年と標題にもありますように、私達は昭和33年から今年まで19年間無災害を続け、実労働時間総延数も、519,600時間となりました。そこでこの19年、無災害でこられたのは幸運でもあります。どうしてだろうという事で、昨年下山前の11月26日、宿舍ではじめて全員でブレーストーミングを行い、94の意見を集めました。

KJ法でまとめた過程と結果を次の図で説明します。

### 1. 仕事も安全も健康な体から

まず何をすることも健康第1、二日酔するほど飲まず、早寝早起きをして、明日へ疲れを残さない生活。安全体操を毎日やり、自らの体を大切にしてきた。又、スタミナ料理を作ってくれる炊事手の心づかいが、みんなを助け、仕事も安全も体力ある健康な体から生まれるものであります。

### 2. 円満な家庭ムードは安全作業の、はげみ

また家庭に入れば、カアチャンのサービスがよく、家庭の協力があって安全についてよく話しあう。

これら円満な家庭ムードは安全作業へのはげみとなります。

### 3. 緑を育てる事に希望を持ち現場を大切にす

私達は国有林に勤めはじめてもう20年以上、雨の日も雪の日も、1歩1歩山を踏みしめ、山の地形をおぼえ、自分の仕事に生きがいと責任を感じ、緑を育てる事に希望をもって、作業現場を大事にしてきました。

### 4. しっかりとした基本と、道具で正しい安全作業

機械器具ひとつにしても、点検整備をおこたらず、基本動作・規制等を守り、作業要領を白らのものとししました。豊かな緑作りはまず歩道整備から。という言葉があるように、私達も現場へむかう歩道には力を入れ、作業環境をよくして、無理なく作業できるよう努力しました。山泊生活の私達は月曜日土曜日の入下山には、特に安全運転につとめ、笑顔で職場へ家庭へむかいました。やはりしっかりした基本と道具で正しい作業が安全につながるのだと思います。

### 5. 与えられた安全でなく、素直で、ゆとりある自分たちの安全を作ろう

どんな仕事でも「段取り8分」と言いますが、私達の職場のようにお天道様の下で広範囲にわたる場合、まさしく「段取り8分」が仕事の工期や、安全にもつながってきます。作業の前にみんなで話しあい、お互いの作業を信頼する。そして宿舎へもどっての反省会、また朝出かけの職場安全会議、とにかく話しあう場を作ります。表面的な活動より、中味の濃い会話を持ち、安全に妥協は許されないのでありますから、素直な気持で安全作業につとめ、与えられた安全でなく、ゆとりのある自分たちの安全を作ります。ここで1つ重要な事ですが、仕事はたえず追うことです。仕事に追われますと、精神的にもあせりが出て不安全行為をおこしがちです。

### 6. みずからの努力と、心の結びつきを深めよう

又、私の仲間は同じ村内なので気心が知れ、宿舎生活も楽しく、まとまりあるチームワークがつけられ、理屈っぽいことはあまり言わず、ほがらかに仕事をし、自分への注意とお互いの思いやりを大切に生活してきました。チームワークは自らの努力と、お互いの心のむすびつきを深めることによってはじめて、太いパイプとなって作られるのではないのでしょうか。

以上6つの島の説明をしました。これらをまとめて一言でいうならば

『みんなが1日1日を大切に、思いやりあるチームワークで明るい職場を作ってきた』と言うことになると思います。

これらから、次の5点が安全の木の肥料ではないかと考えます。

- (1) 自分のことは自分で守る。ケガをすれば痛い目にあうのは自分である。

- (2) 人間は感情の動物。画一的安全教育から個性的教育で心のむすびつきを深めよう。
- (3) コミュニケーションの場をつくり、人間関係の確立。
- (4) 与えられる安全でなくみんなで考え、みんなで決めてみんなで実行。
- (5) 家族全員の愛情と協力、キャッチャンの心づかいが最も大切。

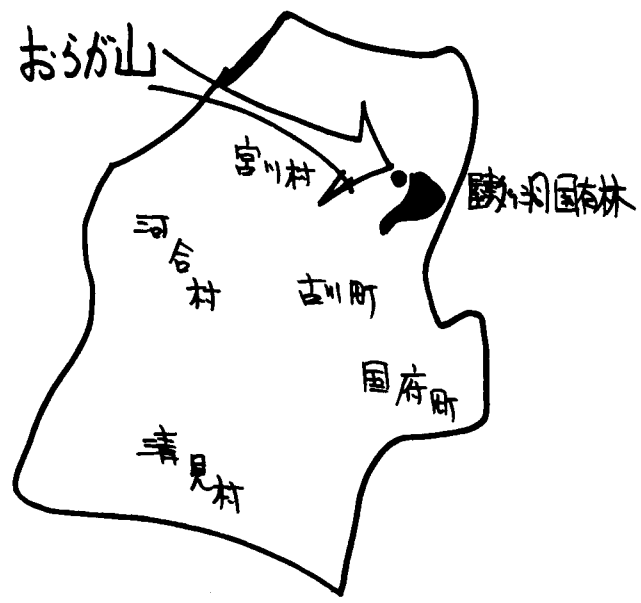
以上のことを十分理解し、実行するならば無災害という木も力強く根をはり、大きく成長することを確信します。

私達が19年、ケガもなく健康でこられたことに感謝するとともに、あすから限りない安全作業をつづけるよう努力します。

#### 参考文献

- わかりやすいK J法の手びき  
(スリーエム研究会)
- スリーエムマガジン。  
1976 11. 12月号  
(スリーエム研究会発行)
- 私たちが進めた安全の体験  
(林業労働災害防止協会)

# 無災害記録19年をふりかえって。



## 人の関係

- ・ 雇用 4月入山 ~ 11月下山・山泊
- ・ 最も多かつた時 25人、今 8人
- ・ 年商 総人員 (51年度) 1,300人

## 事業の関係

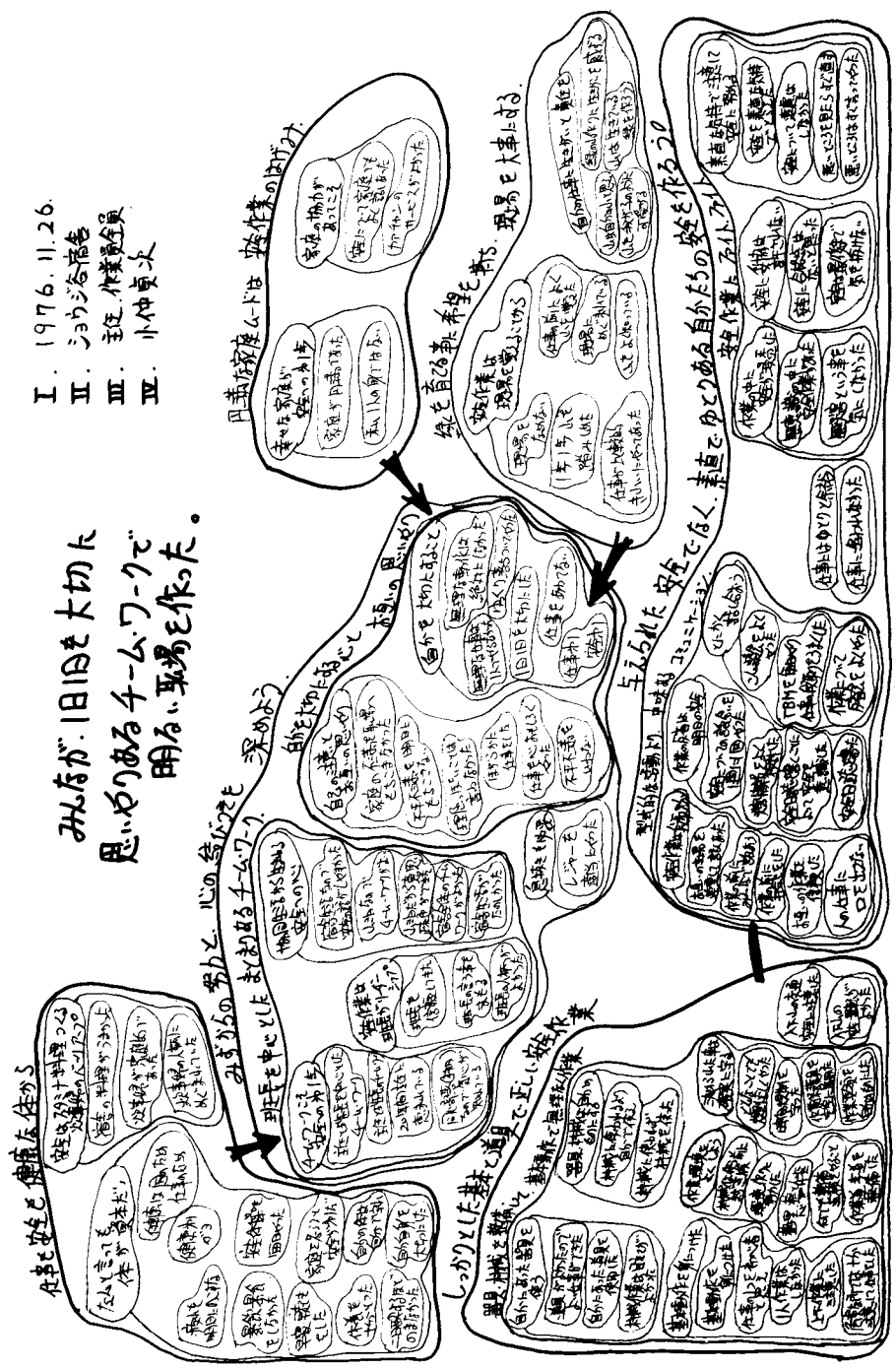
- ・ 51年度 地籍 植付下刈 205ha
- ・ 刈刈棒の使った日数 55日

## 無災害の記録

- ・ 無災害年数 年 33 ~ 年 51. 19年間
- ・ 実労働時間 総量 57,960 時間

19年無双書が続いたのはどうしてだろう。

みんなが、旧旧を大切に  
思いやりあるチームワークで  
明るい、取場を作った。



- I. 1976.11.26.
- II. ショウジ谷宿舎
- III. 主任 作業員全員
- IV. 小仲貞次

# “むすび”

